



KAKUNOSHIN OHTA
RACE REPORT

2023 SUPER FORMULA Rd.3
2023.04.22-23 SUZUKA CIRCUIT



はじめに

悔しい結果となったSF開幕戦から2週間が経ち、第3戦鈴鹿大会を迎えました。開幕戦の結果から、新しいSF23の特性に合ったセットアップの必要性が明らかとなり、チームと細かい分析を行った上で鈴鹿に挑みました。

4月22日(土) フリープラクティス

開幕前の公式テストを怪我で休んでいたため、この公式練習がSF23で走る初めての鈴鹿となりました。走り始めはマシンの動きや走らせ方に慣れることに集中しましたが、鈴鹿は下のカテゴリーでかなり走り込んでいたのですぐにセットアップに入ることができました。マシンのフィーリングは序盤から悪くなく、タイム的にもトップと大きく離れていなかったため、微調整を行いながら走行を重ねました。セッション最後の全車がニュータイヤを装着するタイミングでは、トラフィックで満足なアタックができず、今の自分がある本当のポジションはわかりませんでした。予選に向けてはある程度自信を持てる公式練習となりました。

4月22日(土) 予選(Q1 B組)

公式練習の結果から、予選に向けたマシンのアジャストを行い出走しましたが、ピットから出てすぐにマシンが良くなっていると感じ、Q2進出に向けてかなり自信がありました。しかし、アタックラップに入る前のシケインで前の車に詰まったことで、後ろからくるアタック中の車両と交錯し、かなり加速が鈍ってしまった上、アタックの丸一周を前車とかなり近い位置で行わざるを得なくなってしまいました。これによって満足なアタックができず、尚且つ進路妨害のペナルティも課されることになりQ1敗退となりました。自信があっただけに悔しい結果ですし、次戦に向けては位置取り等の作戦をチームとより一層考えていかないとはいけません。

4月23日(日) 決勝

22位からのスタートとなった決勝レースは、タイヤの摩耗による急激なタイムダウンが予想され、マネジメントをうまくやれば大きくポジションを上げることも可能であると考えていました。スタートからの数周で17番手までポジションを上げることができ、そこから前車とバトルをしながらミニマムの10周めでピットストップを行いました。そこからはアンダーカットを成功させるためにプッシュし、良いペースで周回を重ねていきました。しかし、後半にSCが出たことでステイアウトしていた選手が新しいタイヤで真後ろにつくこととなり、最後の10周弱は防戦一方の苦しい展開でレースを終了しました。この決勝も車の調子は良く、前からスタートしていれば上位で戦える力があつたと感じます。その分、予選で後方に沈んだことが悔やまれる結果となりました。

おわりに

低調なスタートとなった開幕戦から、この鈴鹿で上位争いをするためにチームと準備をしてきました。マシンのフィーリングは確実に開幕戦よりも向上し、戦えるという実感が湧いてきている点ではポジティブですが、細かいオペレーションを含めたレースの戦い方をより一層磨いていかないといけないと感じたレースウィークとなりました。

次戦は5月のオートポリス大会となりますが、引き続きできる限りの準備をしていきたいと思っております。今大会もありがとうございました。

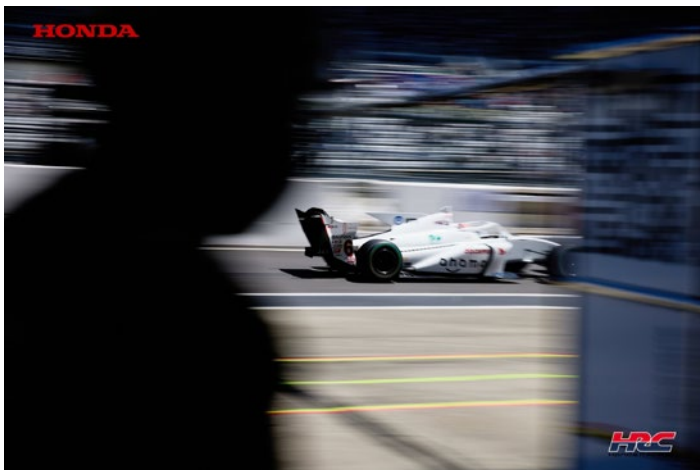
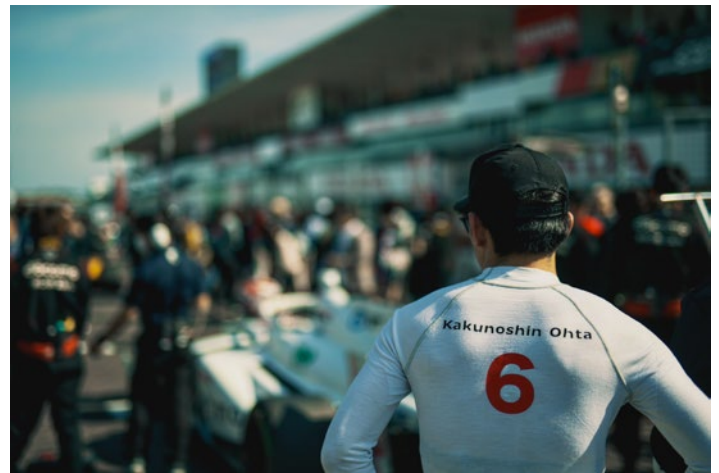




KAKUNOSHIN OHTA RACE REPORT

2023 SUPER FORMULA Rd.3

2023.04.22-23 SUZUKA CIRCUIT



HONDA

